

# 山陰中央新報

## 精神世界の豊かさ考える 宗教学者の山折氏講演

松江

心の豊かさを考える「目の豊かさを考える」をテーマに、再び目を向けるよう訴えた。

松江市西津田6丁目のプラバホールであった。宗教学者の山折哲雄氏が講演し、現代人が重視しなくなった「目に見えないものへの恐れや夢」を精神世界の豊かさだと位置付

け、再び目を向けるよう訴えた。

山折氏は、欧州の教会でパイオルガン演奏者は姿が見えないところにいて、純粹に宗教音楽だけに耳を傾ける仕掛けになっていることなどを引き合いに、昔の人にとっ

重要だった」と解説。だが、望遠鏡の利用など近代科学の発展につれ、目に見えないものは



「目に見えないものへの恐れや夢を考える時ではないか」と訴える山折哲雄氏。松江市西津田6丁目、プラバホール

存在しないという思想が生まれた、とした。

「目に見えないものへの価値」に敬意が払われている事例として、安来市の足立美術館庭園が米国の専門誌から日本一だと評価される秘密に言及。客を庭に入れず、回廊から眺める仕掛けになっていることを挙げ、「名画の鑑賞と同じであるべきだ」という伝統的な美意識がある」とした。

松江市ボランテニアで、松江市ボランテニア連絡協議会などで組織する実行委員会が主催。元文科相の遠山敦子氏らと交えたパネルディスカッションもあり、約300人が聴いた。

フォーラムはバナソニ